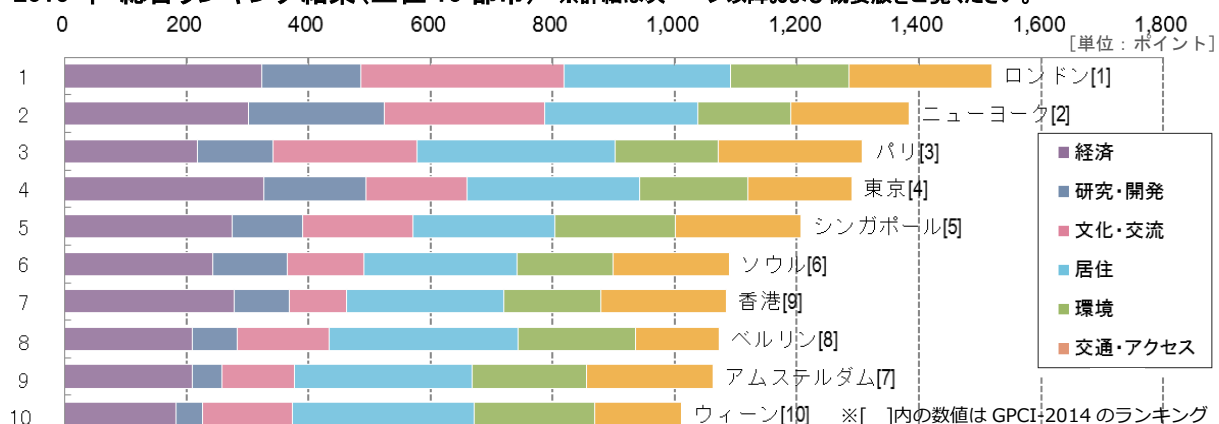


## 世界の都市総合力ランキング「Global Power City Index」 2015年版 発表

一般財団法人森記念財団 都市戦略研究所(所長:竹中平蔵)が、2008年より調査・発表している「Global Power City Index」(GPCI)の2015年版がまとまりましたのでお知らせいたします。本ランキングは世界の主要40都市を対象に、都市の総合力を評価している日本初のランキングで、国や東京都の政策評価指標としても活用されています。

2015年版の総合ランキング上位に大きな変動はなかったものの、今年も総合ランキング1位となったロンドン、2012年のオリンピック以降着実にスコアを伸ばしており、2位ニューヨークとの差を更に広げています。東京の総合ランキングは、2008年の調査開始以降8年連続の4位となりましたが、5位のシンガポールがスコアを上げ、東京との差をますます縮める結果となりました。

### 2015年 総合ランキング結果(上位10都市) ※詳細は次ページ以降および概要版をご覧ください。



### 2015年版のポイント

#### ロンドンは2012年オリンピック開催以降、総合ランキング1位を維持し、スコアも伸ばし続けている総合力が非常に高い都市であるといえる

- ・経済分野では、GDP成長率など複数の指標でスコアを上げ、昨年の4位から2位となった。
- ・調査開始以来1位を維持し、他都市を大きく引き離している文化・交流分野では、ロンドンは今後も海外からの訪問者数、国際コンベンション開催件数、買物の魅力などの指標で順位を上げ、その強みをより強固なものにしている。
- ・2012年のオリンピック以降も長期的視点による都市づくりが継続しており、今後も人口が増加すると予測されているロンドン。その都市総合力をどこまで伸ばすのかが注目される。

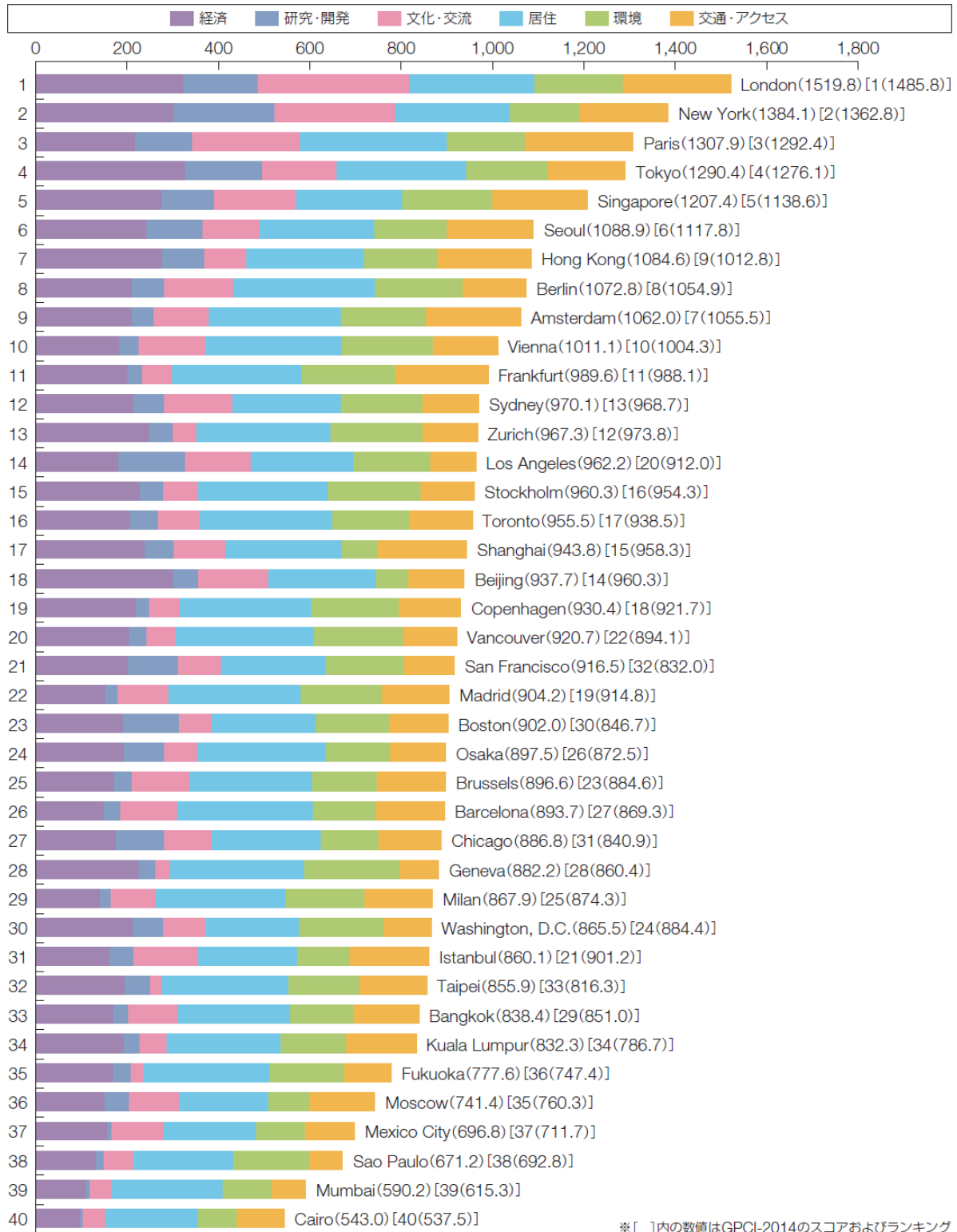
#### 東京は文化・交流分野の順位を高めるも、総合ランキングでは8年連続の4位に留まる

- ・文化・交流分野では、海外からの訪問者数が681万人から887万人へ増加した他、留学生数、食事の魅力、外国人居住者数などの指標が東京のスコアを押し上げ、6位から5位へと上昇した。しかし、トップ3都市と比較すると、海外からの訪問者数、ホテル総数、美術館・博物館数、外国人居住者数等において依然として大きな開きがあり、文化・交流分野は、東京の総合順位上昇の鍵を握っているといえる。
- ・交通・アクセス分野では国際線直行便就航都市数、国際線旅客数が依然として低水準にあり、東京の弱みとなっている。
- ・東京は2020年に開催される東京オリンピックに向けて、都心部での再開発の加速や国際空港の発着枠拡大が見込まれており、現在抱える弱みを強みに変えることができれば、総合順位の向上が期待できる。

#### アジアでは、シンガポールと香港が大きく上昇。上位の都市で二極化の傾向が鮮明になりつつある

- ・シンガポール(5位)と香港(7位)が大きくスコアを向上させた。シンガポールと東京のスコア差は年々縮小しており、4位の東京を急速な勢いで追い上げてきている。
- ・かつて勢いを誇った上海(17位)と北京(18位)は、これまでの順位上昇を牽引していた経済のスローダウン等によりスコアを落とし、順位を下げた。

## 分野別総合ランキング結果 2015



### 一般財団法人森記念財団 都市戦略研究所とは

森ビル株式会社の寄付により設立された財団法人において、グローバルな視点からの“都市戦略研究”に取り組むことを目的に2008年に設置された研究所。世界の都市を対象に、都市空間のみならず環境・社会・政治・経済など様々な角度から都市の現状や将来に関する調査研究を行い、成果は世界に向けて発信している。

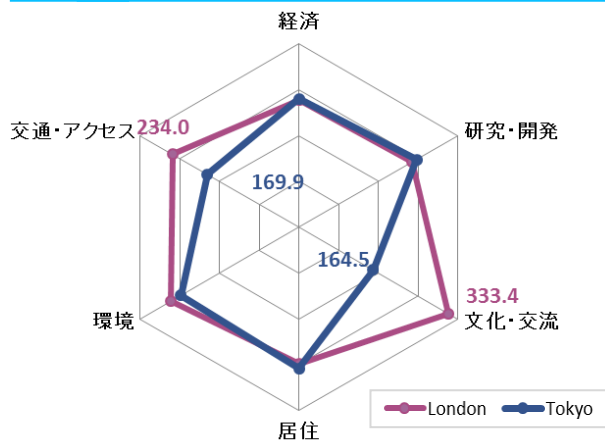
本件に関するお問合せ

一般財団法人 森記念財団 都市戦略研究所 担当：浜田、大和  
 TEL: 03-6406-6800 FAX:03-3578-7051 Email: info@mori-m-foundation.or.jp  
<http://www.mori-m-foundation.or.jp>

## 参考1 東京の強み・弱み

東京の強み (偏差値65以上)		トップ3都市に比べて 東京がやや弱い (偏差値50以上65未満)		東京の弱み (偏差値50未満)		
分野	指標グループ	分野	指標グループ	分野	指標グループ	
経済	市場の規模	経済	ビジネス環境	経済	市場の魅力	
	経済集積		交流・文化発信力		ビジネスの容易性	
	人的集積		集客資源	居住	居住コスト	
研究・開発	研究集積	文化・交流	集客施設	環境	自然環境	
	研究環境		受入環境	交通・アクセス	国際交通ネットワーク	
	研究開発成果		交流実績		交通利便性	
環境	エコロジー	居住	就業環境			
交通・アクセス	都市内交通サービス		安全・安心			
			生活環境			
		環境	汚染状況			
		交通・アクセス	国際交通インフラキャパシティ			

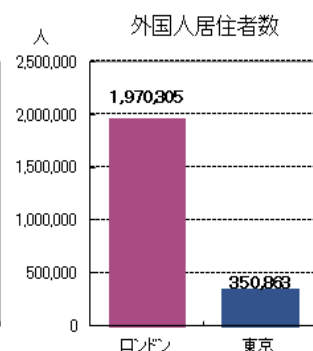
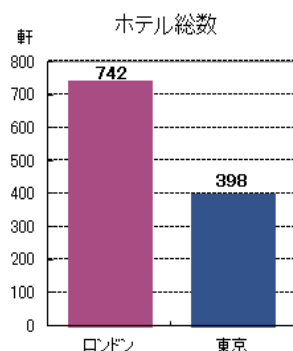
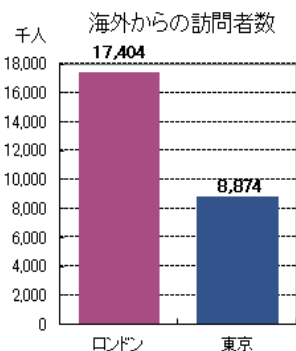
## 参考2 オリンピックを機に飛躍したロンドンと オリンピックに向けて都市力向上をめざす東京の比較



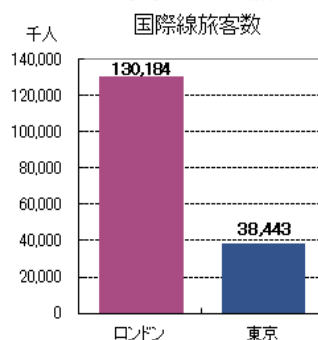
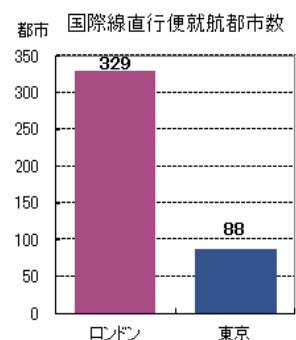
2012年のオリンピック開催を機に、国際コンベンション開催件数、ホテル総数、海外からの訪問者数など、文化・交流分野を中心にスコアを上昇させたロンドン。

東京が2020年オリンピックを契機として、ロンドンを抜いて1位の座を獲得するためには、下図に見られるような大きな力の差を埋めることが求められる。

### 文化・交流



### 交通・アクセス



参考3 総合ランキングの変動 (GPCI-2008~2015)





## 参考4 ランキングの作成方法

世界の都市総合カランキング（GPCI）では、6分野（経済、研究・開発、文化・交流、居住、環境、交通・アクセス）それぞれにおいて、主要な要素を表す「指標グループ」を設定し、さらにそれらを構成する指標を70選定した。各指標をスコア化した上で、指標グループのスコアを算出し、分野別ランキングを作成した。分野別総合ランキングは、それらを総合して作成した。



## 世界の都市総合カランキング(GPCI)とは

特定分野（「金融」や「住みやすさ」等）ではなく、都市の力を表す様々な分野を対象として都市の総合力を評価するランキングで、都市の総合力を分析し、順位付けする調査研究として、日本初の取り組みです。

